

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ひまわりきっず		
○保護者評価実施期間	令和6年11月15日		～ 令和6年12月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○従業者評価実施期間	令和6年11月15日		～ 令和6年12月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	25	(回答者数) 19
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 1月 15日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	週1回程度の利用であるが、年齢が上の利用者様の環境の中でもなじめている。	放課後等デイサービスでの利用者様の中で年上の方々と同じ環境の中で遊びや活動をするようにしている。	引き続き、放課後等デイサービスでの利用者様の中で危険性のないように過ごす。 頻度の少ない状況の中でもなじめるように、状況に応じて職員が間に入って環境づくりをする。
2	活動や遊びを通して様々な機会に触れることができるように支援している。	活動カレンダーを作成し、様々な職員が担当をもつことで日々の活動が固定化しないようにしている。 個別活動では、個別支援計画に沿って、苦手なことが伸ばせるように支援している。 音楽療法やダンスをなど外部の講師を交えて活動ができています。	利用者様が楽しい等いろんな感情がもてるように今後も様々な活動を計画する。 利用者様が好みそうな物や活動を日々の関わりから発見できるように支援する。
3	状況に合わせて臨機応変に利用者様の部屋分け、職員の担当制を変えている。	利用者様の状況に合わせて部屋を分けて過ごし、怪我の防止に努めている。 当日いる職員の部屋割りをして、担当制にしている。	当日の利用者様の特性や職員の勤務状況に応じて割り振りを継続し、安全に過ごせる場を提供する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童発達支援での利用者様に対しての遊びや活動の提供内容がずれてしまう。	同じ年代での利用が少ないため、遊びや活動がどうしても年上の利用者様の遊びに偏ってしまう。	ダンスや音楽療法等、全体活動では一緒に活動ができているため、活動の中で利用者様の特性に応じた支援ができるように目を配る。
2	利用者様の人数に対して場所が狭いときがある。	児童発達支援での利用者様は土・祝での利用の為、全体の利用者様の人数が多く、人数に対しての場所が狭くなっている。	引き続き、臨機応変に部屋分けができるように職員の確保をし、怪我の防止に努める。
3	職員の意識レベルに差が生じている。	経験不足や勉強不足から職員間で、障害特性の把握に差が生じてしまっている。	現在行っているパソコンによる外部講師の研修や、強度行動障害の基礎研修を受講することで資格取得に努め、基礎部分からのレベル向上に努める。